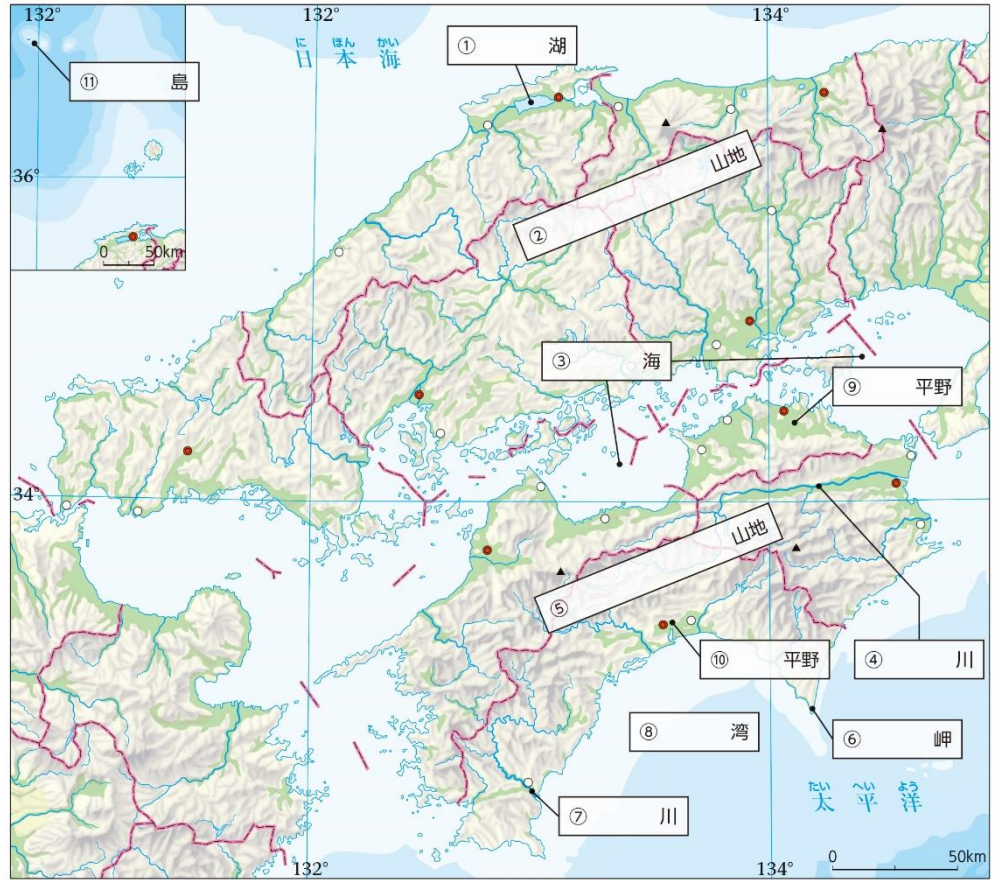


学習のまとめと表現

中国・四国地方の学習を振り返って整理しよう

教科書対応ページ p.201 (参照するページ p.190~199)

②地図を使って
確かめよう。



①地図中の に
あてはまる地名を書
き入れよう。

①	宍道湖	②	中国山地	③	瀬戸内海	④	吉野川
⑤	四国山地	⑥	室戸岬	⑦	四万十川	⑧	土佐湾
⑨	讃岐平野	⑩	高知平野	⑪	竹島		

②教科書 191 ページの資料 4 にある、三つの気温と降水量のグラフを使って、日本海側(山陰)・瀬戸内・太平洋側(南四国)のそれぞれの気候を比較し、その違いについて文章にまとめよう。

日本海側：冬に降水(降雪)量が多くなるが、気温は他地域と比べてさほど低くない。

瀬戸内：一年間を通じて温暖な気候で降水量が少なく、水不足に悩まされることがある。

太平洋側：一年間を通じて温暖で、特に夏の降水量が多い。

③本州四国連絡橋の三つのルートについて、それぞれのルートを地図中に示そう。

※ (解答例) ②教科書 p.191 の記述などを振り返りながら。③の解答例は、4 ページめを参照下さい。

③表現しよう。

①【他地域との結びつき】本州四国連絡橋の開通による、四国側の変化について文章にまとめよう。

(解答例) 四国側からの物資の輸送が便利になり、通勤や通学、買い物などで四国側から本州に出かける人が増えた。さらに、大都市と地方を結ぶ交通機関の整備によって、四国側から人口の流出が進む現象がみられる。

※(解答例) 教科書 p.198-199 本文の記述などを振り返りながら。

②【歴史的背景】^{ひろしま}広島市の発展について、次の年表に簡単にまとめよう。

時代	出来事(解答例)
安土・桃山時代	毛利輝元が太田川下流の三角州を干拓し、広島城を築く。
江戸時代	浅野氏の城下町として発展。
明治時代	広島県がおかれ、沿岸部が埋め立てられ、港が整備された。 (中国地方の中心都市として発展し始める)
(日清戦争のころ)	大本営、帝国議会在一時おかれる。 (軍事都市としての性格をもつ)
昭和時代	1945年8月6日原子爆弾が投下される。 (市街地が大きく破壊される)
1970年代以降	市町村合併が進む。 (政令指定都市、地方中枢都市として重要性が高まる)

※(解答例) 教科書 p.192-193 本文の記述などを振り返りながら。

③【産業】^{うまじ}馬路村や^{かみかつ}上勝町で行われた、地域の活性化の取り組みが成功した理由について、それぞれまとめよう。

(解答例) 馬路村は村の農産品である「ゆず」を活用し、商品の命名やイメージを工夫したり、インターネットを利用した通信販売を行ったりしたことで地域ブランドとして定着させることができた。
上勝町は地域の野山に生えている木の葉や野草を料理の「つまもの」として料亭や旅館に売ろうと考え、全国へ販売できるようにタブレット型端末を通じた販売、売り上げ確認ができるようにした。

※(解答例) 教科書 p.196-197 本文の記述などを振り返りながら。

掲載されている解答は、一つの例です。
自分の解答が正しいか気になった場合は、先生に質問してみましょう。



まっぴんぐま

④意見^{こうかん}を交換しよう。

*中国・四国地方を日本海側、瀬戸内、太平洋側に分けて人口の変化についてまとめよう。また、それをもとに、「人が移動する原因と移動がもたらす地域の変化」について意見を交換しよう。

地域名	人口の変化（解答例）
日本海側	<ul style="list-style-type: none">・日本海側の山陰地方は、高度経済成長期以降、多くの人々が労働力として瀬戸内海沿岸の大都市などに流出し、人口の著しい減少が進み、さまざまな問題が起きている。 <u>【p.191 本文】</u>・中国山地の農家では、高度経済成長期以降、瀬戸内海沿岸の工業地域や近畿地方へ人口流出が続き、若い世代の人口減少にともない、高齢者の割合が高まるなど過疎化が進んでいる。 <u>【p.194 本文】</u>・学校の統廃合、公共交通手段の減便や廃止、商店や医療機関の減少、耕作放棄地が拡大するなど、深刻な社会問題となっている。 <u>【p.194 本文】</u>
瀬戸内	<ul style="list-style-type: none">・明治時代に鉄道が開通すると、ユーラシア大陸への玄関口である九州地方への交通路となり、都市が発達し、高度経済成長期には瀬戸内沿岸の鉄道・道路など交通路の整備と産業発展にともない、さらに都市が大きく発展した。 <u>【p.190 本文】</u>・高度経済成長期には、中国山地・四国山地の山間部、山陰地方、南四国地方から人口が流入した。 <u>【p.191 本文】</u>・特に広島市は、政令指定都市・地方中枢都市として人口がいっそう集中していった。市街地が市内の三角州から周辺の丘陵地や太田川沿いに拡大し、都市化が進むとごみ処理場や水の確保、交通渋滞などが発生した。また、近年宅地化が進んだ市北部の山間部などでは、集中豪雨による浸水被害や土砂災害などに見まわられている。 <u>【p.193 本文】</u>
太平洋側	<ul style="list-style-type: none">・南四国地方も、日本海側の山陰地方と同じく、高度経済成長期以降、多くの人々が労働力として瀬戸内海沿岸の大都市などに流出し、人口の著しい減少が進み、さまざまな問題が起きている。 <u>【p.191 本文】</u>・四国山地に位置する町村では、林業や農業が中心的な産業だったが、1960年代以降、木材輸入が増える中で林業はおとろえ、村では過疎化・高齢化が進んだ。 <u>【p.196 本文】</u>

p.201 の「②地図を使って確かめよう」③の解答例

③本州四国連絡橋^{れんらく}の三つのルートについて、それぞれのルートを地図中に示そう。



※尾道・今治ルートは、全線開通しています。

(着色する色などは問いません。適宜お選び下さい)